

## EURAP とは

ヨーロッパで始まった共同研究グループです。その後アジア・オセアニアの国々の研究者も参加するようになりました。

## 研究目的

抗てんかん剤が胎児に及ぼす影響を調査することを目的としています。抗てんかん剤は催奇形性があるとの報告がいくつかありますが、どの程度の催奇形性があるかについては十分にわかっていません。(これまでの研究が後方視的におこなわれたものであったり、対象とした患者数が少なかつたりしたためといわれています。)そこで、たくさんの患者さんの経験をあつめて研究を行なうことにしました。ひとつの国だけでは、統計的に信頼の高い結果が得られないので多くの医師が協力する必要があります。

たくさんの患者さんのデータを集めるために時間がかかりますが、研究で得られた結果は抗てんかん剤を服用しながら妊娠する女性の日常の診療に役立てられます。

## 方法

この研究では、抗てんかん剤による治療を受けている患者さんの妊娠がわかった時点で、その妊娠を登録します。妊娠 16 週までに研究分担医師に妊娠の報告があった患者さんが対象になります。

この研究は、研究目的に同意していただいた患者さんの協力によって成り立ちます。同意書を頂いたあとで、アンケートをはじめます。研究の目的に賛同できないときは、研究に参加する必要はありません。

アンケートは妊娠 16 週までに一回、その後 24 週と 28 週を過ぎた時点で各一回、子供が生まれた時点で一回、子供が 1 歳になったときに一回で、合計 5 回のアンケートがあります。

アンケートの結果は、主治医の先生が日本の支部の静岡てんかん・神経医療センター（大谷英之医師）に送ったあとにイタリアのミラノの本部に登録されます。

患者さんの情報には、名前のローマ字表記の一部をつけます。山田花子さんの場合には YAMHAN として登録されます。これ以外の個人を特定する情報は静岡の日本支部にもイタリアの本部にも伝わりません。

ご協力をよろしくお願いいたします。